

令和8年度 文京区立窪町小学校 授業改善推進プラン 第2学年

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
国語科	○叙述に沿って登場人物の心情を読み取ること。 ○出来事を書き綴ることはできるが、思ったこと、感じたことを書くための表現方法を身に付けることが難しいこと。 ○情景が伝わるように音読をすること。 ○作文をするとき、句読点を正しく使うこと。 ○既習の漢字の活用をすること。	○本文の言葉に着目することを定着させる。 ○友達や作品のよい表現を称賛し、表現方法を豊かにさせる。 ○授業の中でよい読み方のポイントを押さえていく。 ○日記に週一度程度取り組むことで、正しい句読点の使い方を身に付ける。 ○連絡帳や日々のノート指導などで、普段から漢字を意識して使うように指導する。
算数科	○計算の知識・技能を定着させること。 ○数量や図形の領域では、具体的な量感や図をイメージする力を養うこと。 ○道具を正確に扱い、測定や作図を丁寧に行えるようにしていくこと。	○意見交流の時間を増やしたり学習課題の難易度を変えたりして、習熟度に合った授業内容を展開する。 ○自分なりの解決方法で追究できる課題を提示する。 ○自ら予想し、その後実際に測定してみることで、数量へのイメージをもてるようにしていく。 - また、教師が具体物を操作したり、子ども達に実物を操作させたりして実感をもたせる。 ○道具の正確な使い方を指導し、反復練習させる。 ○児童の生活場面や具体物、半具体物を丁寧に扱いながら、立式や答えを求める過程を取り扱っていく。
生活科	○学習のめあてへの興味関心に個人差があること。 ○制作活動などには興味をもつが、自分の身近な生活と結び付けたり、自分事として考えたりすること。	○児童の関心をもとに単元計画や導入などを構想する。 ○何のための活動なのか、めあてを振り返りながら自分事としてとらえさせていく。
音楽科	○音と動きを融合させた体を使った表現活動を、楽しくのびのびと自己表現すること。 ○鍵盤ハーモニカの習熟に個人差があること。	○体を使った様々な表現方法や、曲想に合った表現をすることの心地よさや楽しさを味わわせる。 ○児童同士での学び合いや、個別指導なども取り入れながら、個人差を少なくしていく。
図画工作科	○手本などに捉われず、自分の想像を広げていくこと。 ○材料や用具の使い方など十分に慣れるとともに、表したいことを基に表し方を工夫すること。	○活動のねらいをしっかりと伝え、自分のイメージを最初にもたせる時間を確保できるように授業を展開していく。 ○製作に入る前に試し書きをしたり、描きたい物を考えたりする時間を確保する。
体育科	○「並ぶ・整列する」など集団行動を意識すること。 ○勝敗を受け入れることができるようにすること。 ○体の使い方や動かし方が分かっていない児童が多い。	○体育の時だけでなく、日常の中に、素早く並ぶ、静かに気を付けの動きをすることを積極的に取り入れて、徹底して指導する。 ○自分の気持ちだけを考えるのではなく、相手を尊重することの大切さを繰り返し伝えていく。 ○体育の時間や休み時間に、様々な固定器具や道具に触れたり、自分の体を使った運動遊びをたくさん経験させたりしていく。
外国語活動	○外国語活動の授業を楽しみにしていたり、楽しんでいるが、英語に対する苦手意識から取り組まない児童が一部いること。 ○単語は発することができるが、文になると声が小さくなってしまうこと。	○ALTと連携し、児童が楽しめる歌やゲームなどのアクティビティを引き続き取り入れ、遊びながら英語に親しませる。 ○ジェスチャーを活用して話したり、ペア活動をしたり、安心して英語を使える場を設定する。

道徳	○登場人物の気持ちを表面的にしか捉えられず、自分の考えを言葉で表現することが難しい場面がある。 ○自分の意見をもっただけで終わることが多く、友達の考えを聞いて、自分の考えを深めたり、意欲を高めたりすることが難しいこと。	○発問で、「〇〇したことある?」「もし自分だったら?」と問いかけ、教材の価値を自分の生活と結び付けて考えをもてるようにする。 ○全体発表の前に、ペアやグループで交流する時間を設け、同じ考えや違う考えなどの視点をもたせる。
----	---	--